

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲先 第 290 号	氏 名	坂 本 真 理 子
審査委員	主査	鎌 田 磨 人	
	副査	山 中 英 生	
	副査	上 月 康 則	
<p>学位論文題目</p> <p>実践のプロファイリング手法を用いた協働のまちづくりにおける調整役機能に関する研究</p>			
<p>審査結果の要旨</p> <p>まちづくりにおいては多様なステークホルダーが関与し、その目標達成に向けて協働する事業が多く見受けられている。このような協働事業において、関与者や地域住民らの利害調整を担う役目が存在し、その調整機能の善し悪しが事業の成否の重要な鍵となっていることが指摘されている。しかし、こうした調整役が担う調整機能、役割の実態は見えにくく、知見として整理されていない。複数のステークホルダーによる協働のまちづくりの実践において、調整役の立場とその調整機能・役割を明らかにし、さらには、こうした調整役機能を専門として担う人材の育成や、技能の深化へと展開することが「まちづくり」の質的向上に重要と言える。</p> <p>本研究では、こうした協働のまちづくりにおける調整役機能に着目して、その実態を明らかにするため、実践者からの聞き取りをもとに分析するアプローチを採用して、調整役と地域とのつながりに着目し、その度合いによる調整役機能の共通点、相違点を明らかにしている。この際、米国で開発された“実践のプロファイリング手法”を我が国の文化性に応じて移入している点に独自性が見られる、</p> <p>具体的には協働のまちづくりにおいて、立場や専門の異なる調整役機能の実態については、景観専門家の調整役機能と農山村地域における外部協働コーディネーターの役割について分析し、専門家としての信念の重要性、見えない役割の重要性を指摘している。また、調整役と地域とのつながり度合いによる調整役機能の分析において、多様な調整を担った5名の異なるプロファイル6件を分析して、調整薬として重要な機能リストの抽出に成功している点が、有用な成果として評価できる。</p> <p>以上、本研究は、今後、多主体の協働型まちづくりの進展が進む中で、地域行政、地域社会資本整備、地域創生における重要な知見を得たものであり、本論文は博士（工学）の学位受容に値するものと判定する。</p>			